

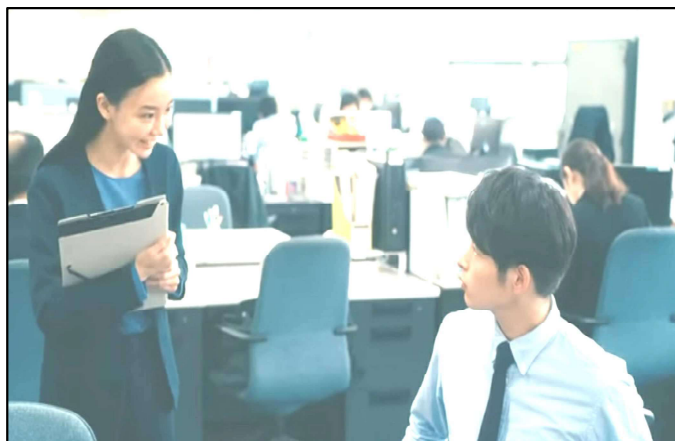
人権啓発動画 「『誰か』のこと じゃない。」

障がいのある人編

登場人物 — 山田<sup>やまだ</sup> 伊藤美緒<sup>いとう み お</sup> 同僚D



< 職場内での会話 >



山田「伊藤さん この後の会議って上の階だよな 何時から？」

美緒「もうすぐ始めるところです  
でも確認事項の共有程度なので  
上の階だと山田さんは大変でしょうし 大丈夫ですよ」

山田「エレベーターを使えば行けるよ  
そんな気を使わなくてもいいのに」

美緒「本当にすぐ終わっちゃうと思うので  
で全然大丈夫です！議事録送っ  
ときますね！」

山田「…」

< 食堂 >



同僚D「山田 例の取引先との打合せだけ  
ど 先方のオフィスまで歩くこと  
になるし 少し距離もあるから 無理  
しなくていいよ」

山田「え…ああ…分かった」

美緒 (ナレーション)

「障がいに配慮しているつもりが本人の気持ちとすれ違っていた」

< 職場仕事終わり >



美緒「おつかれさまです」

山田「おつかれさま」

美緒「今から帰りますけど 駅まで一緒  
に行きます？」

山田「ううん まだ仕事があるから  
大丈夫」

「僕はこの仕事が好きで だからこそ  
もっとみんなと話し合いながら作っ  
ていきたいんだ」

美緒（ナレーション）

「車いすで働くことは大変だから 負担を減らす そうではなくて 本人の希望を  
聞くべきだった」



美緒「会議とかの時間 できるだけ早  
く伝えますね」

山田「うん ありがとう」

美緒「オンラインでも会議とかは参加でき  
ますしね」

山田「あ それ助かる！」

美緒（ナレーション）

「押し付けの配慮で無意識に遠ざけていたのかもしれない」  
「障がいのある人も同じチームの仲間なんだ」  
「チームみんなで考えていかないと」  
「これは『誰か』のことじゃないから」



障がいのある人の社会参加には、社会や働く環境の整備における  
合理的配慮とともに、心のバリアフリーが大切です。  
障がいのあるなしにかかわらず、すべての人が自分の能力を発揮できる  
共生社会を実現しましょう。

登場人物－エミリー 伊藤美緒 近所の人A.B.C

<ゴミ置き場>

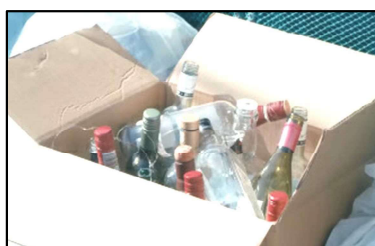
エミリーがビニール傘とペットボトルを入れたゴミ袋をゴミ置き場に捨てる



エミリー「ハイ」  
美緒「おはようございます」



近所の人A「おはよう」  
美緒 「おはようございます」  
近所の人B「あら美緒ちゃん これからお仕事？」  
美緒 「そうなんです」  
近所の人A「確か 美緒ちゃんもあの外国の人と同じ階に住んでるのよね？」  
美緒 「そうですね 何度かご挨拶したことがあります」  
近所の人A「あの人いつもいい加減にゴミを捨てていくのよねー」



近所の人B「私も見たわよ」  
「生ゴミの日に大量のお酒の瓶を置いていって  
たわ」  
「あと あの人の部屋の近くを通ると 変な匂  
いがしてる時があるのよねー」  
「一体何をしているのかしら」



近所の人A「近頃は物騒な話もあるから簡便してほし  
いわねー」  
「美緒ちゃんも気を付けてね」  
美緒 「はい…」



## 美緒ナレーション

「そんなに悪い人には見えなかったけど…」

<また別の日>

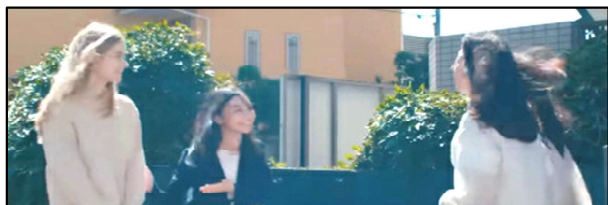
エミリーが缶を入れたゴミ袋をゴミ捨て場に捨てる所に美緒が通りかかる



美緒 「ノー！ノー！ノー！ノー！ノー！缶は駄目！」  
「トゥデイ 缶は 駄目」  
「瓶や缶は 水曜日…ウエズディです！」  
エミリー 「Oh～ウエズディ！」  
「ワタシ ソンナルール シラナカッタ」

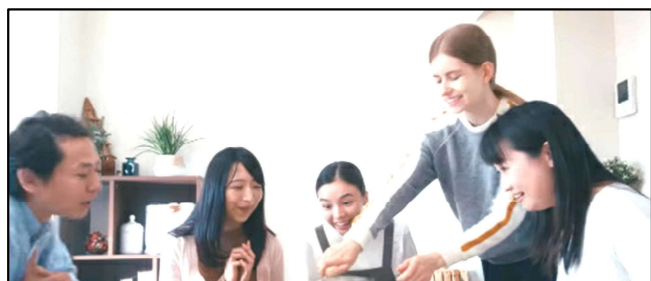
## 美緒ナレーション

「なんだ 言葉が通じないと思って 近寄り難かったけど話してみればちゃんと伝わるんだ」  
近所の人A.B.Cが朝の挨拶をしながらゴミ置き場へやってくる。



美緒 「エミリーさんです ルールを知らなかつたみたいです」  
近所の人A 「あ そうなの」  
近所の人B 「そうだったんだ」

<エミリーの自宅>



エミリー 「コレ ワタシノ コキョウノ アジデス」  
「**ジャージャー**」  
みんな 「わーすごい、おいしそう」  
近所の人B「あの匂いってこれだったのね 美味しそう！」

<英訳付きのゴミ収集カレンダー>



## 美緒ナレーション

「思い込みや偏見をなくすために お互いに歩み寄ろう」  
「これは『誰か』のことじゃないから」

文化の多様性や外国人の生活習慣等異なる文化・価値観への認識と理解を深めることが偏見・差別の解消につながります。

登場人物 一 いとう み お 伊藤美緒 いとう はるか 伊藤 遥



美緒 「へーそうなんだ」

「おばあちゃんの恋話 こいばな 初めて 聞いたかも もててたんだね」

遥 「そうなのよ でも もう昔の話だからね」

美緒 「なんでその人と結婚しなかったの？」

遥 「その時はね 美緒のひいじいちゃんに反対されたりなんかしてね」

美緒 「そうなの？」

遥 「彼が同和地区出身でね そのことで偏見を持つ人がたくさんいたのよ」

美緒 「同和地区？」

遥 「そこに住んでいるということだけでね 結婚に反対されたり」

「就職で不利になったり そういうことがあったのよ」

美緒 「え…それって差別じゃない」

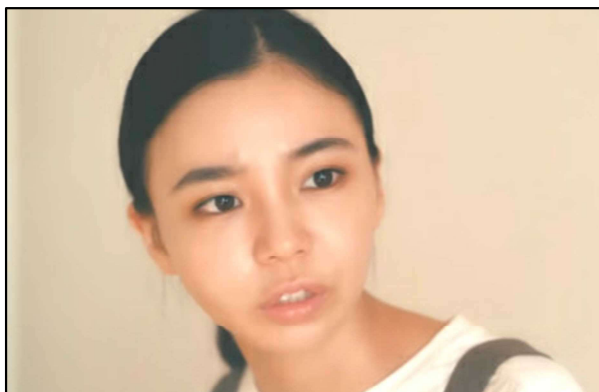
遥 「そうね 最近の若い人たちは余り知らないかもしれないけど」

「今でも同和地区出身の人に対する偏見や差別は残っているのよ」

「同和問題とか部落差別とか言われたりするわね」

美緒ナレーション

「日本にそんな差別があるなんて これまで考えたこともなかった」



美緒 「全然知らなかった 調べてみようかな」

遥 「そうね 調べるんだったら いい場所 知ってるわよ」



職員 「何かお探しですか？」

美緒 「はい 同和問題について知りたいのですが…」

職員 「でしたら 参考になる本がありますのでご紹介しますね」

美緒 「はい」

職員 「インターネットなどには誤った情報や噂も多いものですから  
「正しい知識を皆さんにきちんと提供できるように 私たちも日々様々な取組をしています。」

美緒 「ありがとうございます」



### 美緒ナレーション

「生まれた所や住んでいる所で差別されることがあるなんて…」

「しかも今の日本にそういった差別があるんだ」

「こういう差別はなくなってほしい そのためにも 一人一人がこの問題をきちんと理解しておくべきなんだ これは『誰か』のことじゃないから」

今もなお部落差別(同和問題)によってくるしんでいる人たちがいます。

部落差別(同和問題)について正しく理解し、

一人一人の人権が尊重される社会の実現を目指しましょう。

※法務省ウェブサイトのコンテンツの利用について

人権啓発動画「『誰か』のことじゃない」-法務省-<https://www.mojo.go.jp/JINKEN/>)を加工して作成